

相模原市総合写真祭



25周年記念事業

2026年2月6日~2月20日@相模原市民ギャラリー

TOPICS

高校生の応募写真を OHP シートに印刷、旗のように会場に飾り付けました。



6日に行ったオープニングセレモニーでは、鈴木実行委員長から「高校生の考える平和写真展」応募作から実行委員会投票し選んだ実行委員会賞とニコン特別賞の発表を行いました。実行委員会賞を受賞したのは、下の創也さんの写真作品。



高校では写真部部長の彼は普段から良く撮影するそう。作品は江ノ島に友人と遊びに行ったとき遊び半分に撮ったとか。「逆光でシルエットにしたことで温かくて平和感を感じた」とは、第1回のプロの部さがみはら写真新人奨励賞を受賞し、2022年から実行委員となった萩原義弘さんの評です。

萩原さんは2月7日には一般写真教室を開催、講師を務められましたが、「高校生の考える平和写真展」を企画したワーキンググループメンバーです。

萩原さんは、応募された高校生の写真に驚きを持ったといいます。「コチラが能書きを添えて説明しなくても、彼らたち独自の平和感が表現されていて被写体として撮影されている。高校生はよくみているんだな」と思ったそう。「みえている高校生」に希望を感じたと語ってくれました。セレモニーの終盤には、四半世紀に渡り本実行委員会に御尽力いただいた委員に、実行委員会会長本村相模原市長から感謝状の贈呈を行いました。

※感謝状対象者：江成特別委員、伊藤特別委員、鈴木実行委員長

★高校生の考える平和写真展ニコン特別賞を受賞したのはこちら。さとみさんの作品でした。

高校生の考える平和写真展 25年の軌跡展を開催しました

フォトシティさがみはら事業がスタートしたのは2001年。今年度は25周年記念の年度でしたが、その企画事業の締めくくりとして高校生みなさんに「私が考える「平和」」をテーマとした写真を昨年11月から12月にかけてWebサイトにて公募、その写真展を開催しました。会場となった相模原市民

ギャラリーでは、あわせて「フォトシティさがみはら25年の軌跡展」と銘打って歴代のアマチュアの部金賞受賞作品展示、プロの部受賞対象写真集の一部陳列閲覧、歴代のアマチュアの部応募を募るフライヤーと受賞写真展告知のポスターを展示しました。写真表現へのリスペクトが込められた25年分のフライヤーとポスターは相応の意匠が込められて、あたかも広告デザイン展の趣きでした。高校生らしい感性が表現する「平和」の写真と並んで、このまちの写真文化の「いま」が感じられたのではないのでしょうか。



歴代フォトシティさがみはら受賞作写真展告知ポスター

君が思う、君が写す平和

「フアリと文化に触れることのできるまちに」鈴木実行委員長かく語る



スタートから実行委員として写真祭を支え、2022年より実行委員長に就任した鈴木正彦さん。不動産業の傍ら、「光と緑の美術館」のオーナー。「やはり、市民のなかに文化を根付かせたいという江成常夫さんのふるさと愛というか、その熱意に共感し、動かされたから」と語る鈴木さん。自らが運営する「光と緑の美術館」は、近隣の高校生も立ち寄る場所になっているとか。「パリなんかでは、日常的に軒を並べるギャラリーなどに市民がフアリと立ち寄りして。普通に文化を楽しんでいる。相模原もそんなまちになるといいよね」と、鈴木実行委員長も、やはりふるさと愛に満ちたひとことを残してくれました。

すっかりお馴染みとなった、ハービー山口先生の親子写真教室も 25周年記念写真展会場で開催されました。

2月8日に行った写真教室。ハービー先生は、いつでもどこでも前向きにアクティブ。会場がギャラリーとなっても変わりません。扉を開ける、ジャンプしてみる、楽器を取り出す...さまざまなアクションをするなかでできあがった写真をさらに自由に加工してみる楽しさ、喜び。今年も、作品は嬉しいオドロキに満ちたものとなりました。



▼今年の共同作品



相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会 事務局：相模原市文化振興課 TEL 042-769-8202